



後藤滋樹

ごとう・しげき：早稲田大学 理工学部 情報学科教授。ISOC 理事、APNG 議長、MINC 理事を歴任。現在は APAN 副議長としてアジア太平洋のインターネット界で活躍している。本誌が1994年に創刊されて以来、毎月欠かさず『新・社会楽』を連載してきた。今回が最終回である。
goto@goto.info.waseda.ac.jp

バイリンガル

小中高校でのインターネット利用が盛んになり、学校の先生が国際交流する機会が増えた。せっかくだから生徒も一緒に交流しようとする。

ドイツの先生が言う。「ドイツの子供は最初にドイツ語で話しかけます。それで相手の反応がないと英語に切り替えます。日本の生徒はどうか。日本の先生が答える。「日本の子供は最初に日本語で話しかけます。それで相手の反応がないと、たぶん黙ってしまいます。」

うむ。黙っていても国際交流になりませんね。これは困った。先生が全部の子供の会話を通訳するわけにもいかない。

スウェーデンの洗濯機で苦戦

私も言葉が通じなくて困った経験がある。15年前のことだ。スウェーデンのイエテボリ市の学生寮に4週間ほど滞在した。滞在日数が長くなると衣類を洗濯する必要がある。寮の地下室には大型のドラム式の立派な洗濯機が数台並んでいる。その横に予約表がある。そこまでは私でもわかる。

問題なのはドラム式の洗濯機の使用法だ。洗濯機の上面にあらかじめ洗剤を入れておく穴がある。その穴は仕切り板で区切られている。たぶん洗剤の投入が洗濯の最中に段階的に行われるのだ。でも、穴のどの位置に主な洗剤を入れるべきか、マニュアルがないとサツパリわからない。とにかく洗濯をしないとイケナイ。

実はマニュアルは壁に貼ってある。これがスウェーデン語なのでわからない。正確に言うとルウェー語とデンマーク語の注釈のような括弧の表記が随所にある。これで3か国語で書いてあるというくらいらしい。

私は30分の洗濯をする前に、辞書と格闘すること30分、ようやくマニュアルを解読した。今でもスウェーデン語の洗濯関係の単語をよく覚えている。tvättが洗濯、kem tvättがドライクリーニング。

上の話には続きがある。ようやく使用法がわかったと喜んだ私の肩を叩く学生がいる。何か用事かと聞くと、私の後ろの壁を指さしている。振り向くと、そこには洗濯機の使用法を英語に翻訳した紙が貼ってあった。なーんだ。最初から後ろの壁を読めばよかった。ボランティアが翻訳を掲示してくれている。

フランス語が喋れないと犬になる

スウェーデンでは英語がよく通じる。街のスーパーマーケットの棚に見慣れないジャムのようなものがある。店内で高校生くらいの生徒に聞くと、恥ずかしそうに、それでもちゃんと英語で教えてくれる。

ただし私の友人の忠告がある。お年寄りは英語を喋れない。彼らが子供のときは英語ではなくラテン語を習ったのだから。実際に、私は街でお年寄りに道を尋ねてしまったことがある。相手は無言で申し訳なさそうにしていた。

私のフランス人の友人は次のように主張した。スウェーデンの人はアフリカから養子を迎えることが多い。とても国際的にオープンだと言うけど、よく観察すれば国会議員はスウェーデン人だし、学界だってアカデミーはスウェーデン人ばかりだ。

それに比べると、フランスは自国中心と言われるけど、実は国際的なのだ。あそこのカトリック教会の神父はロシア人だし、人気のあるシャンソン歌手にはイタリア人もいる。フランス社会の重要な位置を外国人だって占めることができるのだ。

私は友人に反論する。フランスの社会に外国人が進出しているのは認める。でも、それはフランス語が喋れる人だけだ。フランス語が喋れなければ人間ではなく犬のような存在ではないか。フランスの公共の場所に禁煙、禁犬という札が出ている。

フルセット日本社会

日本というのは不思議な国である。この国の中には何でもある。イラクの専門家がいる。砂漠の専門家もいる。ジャングルの専門家もいる。私はインドネシアの森林火災に詳しい日本人の研究者と知り合ったときに、この人はどういふ少年時代を過ごしたのだろうと不思議に思った。日本人の子供がジャングルに興味を持つなんて。

経済活動においても、日本のようにほとんどの工業製品を生産している国は珍しい。フルセット経済、フルセット研究の国である。もしもアメリカを、あれは合衆国で普通の国ではないという理由で棚上げしてしまえば、「国」の中では日本の活動が断然一番と言ってよい。

ただし弱点は日本語にある。日本語は日本社会を支えている優秀な言語だ。どんな分野の教科書も日本語で読める。ただし、外国から見れば日本語が障壁になっている。言語のバリアである。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp